

安全航行のお願い

平成23年6月26日（日）午前5時50分ごろ、今切口付近でボート転覆事故が発生しました。転覆当時、静岡地方気象台から波浪と濃霧の各注意が発令されていました。

今切口付近は自然条件が厳しく、過去にも小型船の転覆事故等が発生しています。

小型船舶船長は、船舶の航行や安全確保などすべてに対して責任を負う小型船舶の最高責任者としての自覚を持って、船長としての心得や遵守事項を再確認のうえ、下記について再度徹底をお願いします。

記

1 出航前のチェックポイント

(1) **無理な航行計画**をたてない。

- ・船の性能、航行区域、自然状況を考慮した無理のない計画
- ・危険な状況を乗り切るよりも、計画の中止など、危険を事前に回避することが、より重要である。

(2) **天候、潮流等を確認**し、予測の解析をする。（最新の海の天気を調べる。）

- ・テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等の気象・海象情報の入手・解析

(3) 万一来に備え、**連絡体制の確保**をする。（陸上と常に連絡が取れるようにする。）

- ・携帯電話、アマチュア無線

(4) 安全対策のため**全員ライフジャケットの着用**をする。

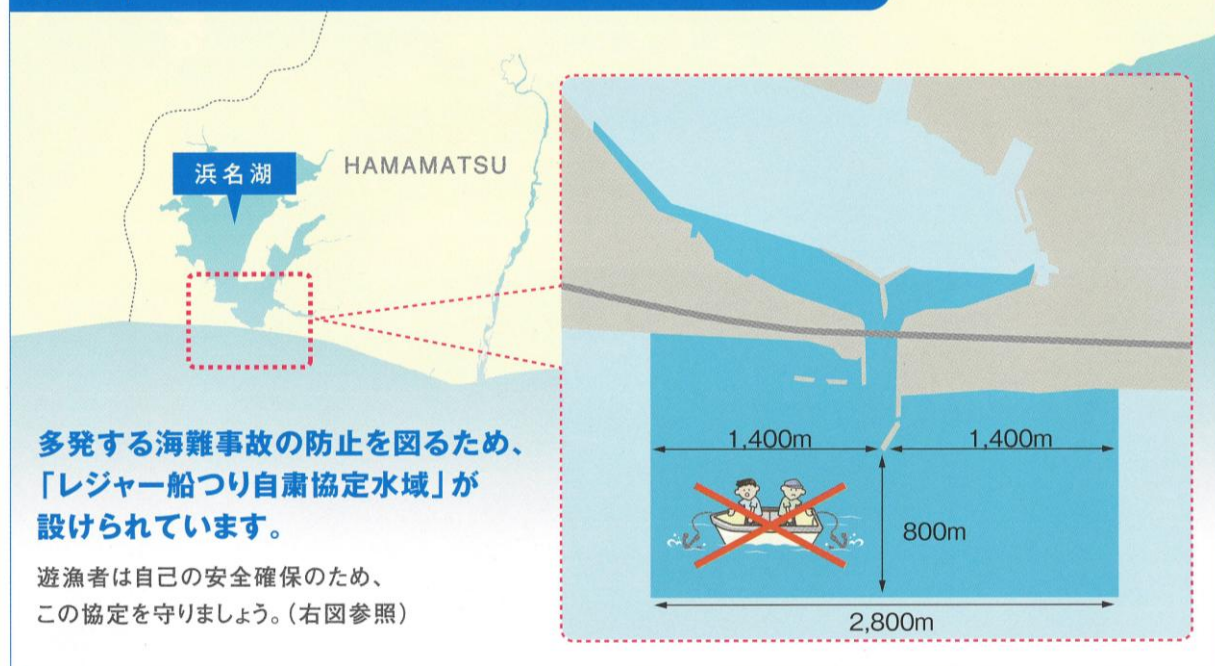
(5) **船体・装備品・機関・燃料**を点検する。



今切口付近を航行される方へ

今切口付近は自然条件が厳しく、また、外洋と行き来する大型船の往来が激しい場所です。

01 レジャー船つり自粛協定水域について



浜名湖・今切口付近

ボート転覆 女性死亡

4人で釣り 漂流3人は救助

二十六日午前五時五十分ごろ、浜名湖と遠州灘を結ぶ通称「今切口」（浜松、湖西市境）付近で、四人乗りのプレジャーボートが転覆し、全員が投げ出された。二一〇番があった。海上保安庁の巡視船が同八時二十五分ごろ、今切口の南三・五キロ沖合で漂流していた男性一人と女性二人を救助。



三人とも御前崎市内の病院に搬送された。

場所を特定した。救助された三人は救命胴衣を着けていたが、ボートは着けていなかった。

幅二・一メートルの強化プラスチック製のボートは、西区古見町の係留施設「伊佐見公共マリーナ」を午前四時ごろ出て、今切口の沖合五十メートル付近でサバ釣りをしていた。波が高いため浜名湖に引き返そうと

したが、けがはなく、そのまま帰宅した。清水海上保安部や浜中中央署によると、ボートは長さ五・四メートル、幅二・一メートルの強化プラスチック製のボートは、西区古見町の係留施設「伊佐見公共マリーナ」を午前四時ごろ出て、今切口の沖合五十メートル付近でサバ釣りをしていた。波が高いため浜名湖に引き返そうと

さんが携帯電話で通報し、県警が携帯電話の衛星利用測位システム（GPS）で漂流



漂流する3人を救助する海上保安官ら＝26日午前8時25分ごろ、浜名湖中の遠州灘で(清水海上保安部提供)

したところ、横波を受け、今切口付近は、自然条件が厳しく大型船の往来が多いとして、地自衛水域」に指定。転覆当時、静岡地方気象台は波浪と濃霧の各注意報を発令していた。清水海上保安部は業

見失ったという。今切口付近は、自然条件が厳しく大型船の往来が多いとして、地自衛水域」に指定。転覆当時、静岡地方気象台は波浪と濃霧の各注意報を発令していた。清水海上保安部は業

務上過失致死の疑いもあるとみて、当時の状況などについて今後救助された三人から事情を聴く方針。

*この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。